

令和 5 年度 宇都宮市立横川中央小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標

- ・「人権尊重の教育」を基盤とし、学びに向かう力や豊かな人間性の涵養を図る教育活動の実践を通して主体的・創造的に生きる、人間性豊かなたくましく生きる児童を育成する。

(2) 具体目標（具体的な児童像など）

- ・思いやりのある子ども(思いやり星) ・よく考え進んで学ぶ子ども(学び星)
- ・健康でねばり強い子ども(健康星) ・働く喜びを知る子ども(働き星)

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「思いやり・健康・働く喜び・共に学ぶ 楽しい学校」

子どもたちが夢を抱き、未来に向かって成長し続けるための基盤を培うべく、愛情と使命感をもって、全力で教育にあたっていく。そして、思いやりがあり、生き生きと学ぶ児童を育成し、児童・教職員・保護者・地域が共に学ぶ楽しい学校を目指す。

楽しい学校とは、「児童にとって、わくわくして登校し、楽しい一日を過ごし、満足して下校できる学校」「教職員にとって、自分のもてる能力を十分に発揮できる、やりがいのある学校」「保護者にとって、安心して子どもを通わせ、積極的・主体的に協力できる学校」「地域にとって、信頼でき、積極的・主体的に協力できる開かれた学校」である。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営の適正化

創立 150 年目を迎える本校の歴史と伝統を継承し、児童・地域の実情を踏まえ、学習指導要領に基づき、学校や児童の実態に即した創意ある教育課程を編成する。児童を主体とする活動の充実を図ると共に、地域の教育力の導入を推進し、活気あふれる学校づくりに努める。

(2) 教職員の資質の向上

教育公務員として法令を遵守するとともに、人づくりの使命感に立ち、学校や保護者・地域の実態を踏まえた実践的な研修に励み、自身の資質向上を図り、和と協働を基盤に、教職員一人一人の特性やよさを生かし、児童・保護者と共に学校づくりに努める。

(3) 学年・学級経営の充実

児童一人一人の興味・関心・意欲や個性等に配慮し、主体的・対話的で深い学びに向けた学級集団づくりと、活力に満ちた教育活動の展開のための学級力向上に努める。

(4) 学習指導の充実

児童主体の分かる授業、楽しい授業の展開に向けた授業力の向上に取り組み、基礎・基本の確実な定着を図り、思考力・判断力・実践力等を重視した体験的・問題解決的な学習を推進すると共に、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた研究を推進する。

(5) 豊かな心の育成

「特別の教科 道徳」を核とした指導と共に、様々な体験活動を通して、生命尊重・思いやり・感謝・勤労・奉仕等の豊かな心の醸成等を重視した教育を推進し、心豊かでたくましく生きる児童の育成に努める。

(6) 児童指導の充実

全教職員の認識を共有し、児童・保護者・教職員間の信頼関係を深め、共感的理解に基づいた人間関係を確立し、日常のふれあいを通して、基本的な生活習慣や集団行動の徹底を図るとともに、社会性の育成に努める。

(7) 健康教育（体力向上，保健教育，食育，安全教育）の充実

児童が健康で安全な生活を送るために必要な資質・能力を高めていけるよう、体力向上，保健教育，食育，安全教育を計画的かつ体系的に推進し、学校の教育活動全体を通じた指導の充実を図る。

○ (8) 地域学校園・小中一貫教育の推進及び特色ある学校づくり

地域の教育力を生かし、家庭・地域・関係諸機関との連携・協働を図りながら、充実した地域学校園・小中一貫教育の実践に努める。また、児童が主体となった勤労生産活動や奉仕的活動を積極的に取り入れ

た、特色ある学校づくりに努める。

(9) 地域とともに歩む学校づくり

地域の教育力の活用及び発掘を推進すると共に、年間を通してのフリー参観や土曜授業等の実践により、学校と保護者地域等の信頼関係を深め、地域に開かれた学校づくりに努める。また、地域協議会・地域諸団体と連携・協働し、地域に根ざした学校づくりを目指す。

[横川地域学校園教育ビジョン]

「豊かな心の育成を目指す 横川地域学校園の小中一貫教育」

～自分、人、地域を大切にし、主体的に行動できる子どもの育成を目指して～

4 教育課程編成の方針

- (1) 教育課程の編成に当たっては、公教育の立場から日本国憲法・教育基本法・学校教育法及び同施行規則並びに小学校学習指導要領の基準に基づいて編成する。
- (2) 学習指導要領の基本的なねらいである、基礎的な知識及び技能を習得させること、習得した知識や技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育むこと、主体的に学習に取り組む態度を養うことの実現に向け、それらにバランス良く取り組める教育課程を編成する。
- (3) 「栃木県教育振興基本計画2025」に示された基本理念である「とちぎに愛情と誇りをもち 未来を描き ともに切り拓くことのできる 心豊かで たくましい人を育てます。」を目指し、「確かな学びを育む教育の充実」に基づいた教育課程を編成する。
- (4) 宇都宮市「第2次学校教育推進計画」(うつのみやいきいき学校プラン)を基に、その施策の柱である地域学校園構想・小中一貫教育を円滑に実施していくことを考慮して編成する。
- (5) 本校教育目標・本年度の経営方針や努力点・学校課題等を踏まえるとともに、地域社会の要望、保護者の願い、本校の実情や児童の実態・特性等を十分に考慮して編成する。
- (6) 前年度の成果や反省を生かすとともに、各教科、特別な教科「道徳」、総合的な学習の時間及び特別活動の4領域の関連を図り、調和と統一のある編成に努め、ゆとりある充実した教育課程を編成する。(教科横断的な視点より)

5 今年度の重点目標(短期的視点) ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 思いやりの心の育成

「特別の教科道徳」を核とした心の教育の充実や、人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動の推進を図る。

(2) 学力向上

主体的・対話的で深い学びを促す学習指導と評価の工夫・改善(授業力の向上)や、子どもたちの良好な人間関係(学級力)を高め、学びに向かう力や豊かな人間性の涵養を図る。

(3) 健康教育

体力向上、保健教育、食育、安全教育の指導を充実させ、健康で安全な生活を送るために必要な資質や能力を高め、自ら考え行動できる児童の育成を図る。

(4) 地域と共に歩む学校づくり

家庭・地域並びに地域学校園の教育力を積極的に活用し、活気あふれる学校づくりに努める。

【学校運営】

- ・教職員が児童と向き合える時間の確保に向け、業務の効率化に努めると共に、出退勤時刻の管理に係る取組により、労働時間の適正化を推進する。
- ・共同的な学びの実現に向けて、教職員自らが学び合い、授業力や学級経営力等の資質の向上に向けた取組の推進に努める。

○ 主体性と独自性を生かした学校経営を推進すると共に、地域学校園に係る事業の効果的で円滑な運営に努める。(乗入授業、研究授業、相互授業観察等の交流、外国語教育に係る授業力向上を図る取組の充実等)

【学習指導】

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、以下のテーマで研究に取り組む。
「主体的に、自分の考えや思いを表現し、学び合う児童の育成」～個別最適な学び・共同的な学びを通して～

【児童生徒指導】

- ・道徳的な判断力、実践力を育むとともに、体験活動や読書活動の充実により豊かな感性を育む。
- ・いじめ防止基本法に基づき、「特別の教科 道徳」や児童会が主体となった集会活動など様々な教育活動の場の設定により、児童の規範意識や正義感、思いやりの心の育成に努める。

【健康（体力・保健・食・安全）】

- ・健康で安全な生活を送るために必要な資質や能力を高め、自ら考え行動できる児童を育成する。
運動に親しみ、運動量を確保する活動の工夫
健康を脅かすさまざまな要因の理解と健康を管理する能力の育成
食事の重要性や栄養バランス等、より良い食生活についての指導
危険を予測し、自分の命を自分で守り抜く行動力の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

□囲いは、本校の目指す児童像に深く関連する項目

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1ー(1) 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 学び星 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導の充実を図る・ ・児童の問題意識を高める授業の導入や授業展開の工夫 ・宇都宮モデル「はっきり！じっくり！すっきり！」の授業展開 ・話し合い活動や対話的授業の工夫 ② 学校課題「主体的に、自分の考えや思いを表現し学び合う児童の育成」を実現するために、教職員の授業力向上の推進を図る。 ・相互に授業を見せ合い、児童の姿から学びを振り返る研修 ・校内研修サポート事業を活用し、外部指導者による指導助言を得ながら、教員同士が学び合う授業研究会の継続の実施 ③ 学業指導の充実を図る。 ・児童アンケートをもとに、実態に応じた支援を工夫 ・県の学業指導応援チーム派遣事業を活用し、学業指導の一層の充実	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 91.2% 教職員の肯定的回答率 96.3% ・目標値を上回った。 ・「主体的に、自分の考えや思いを表現し、学び合う児童の育成～個別最適な学び・協同的な学びを通して～」という研究主題のもと、外部講師から指導・助言を受けたり、校内一人一公開授業を継続して行ったりし、教員が授業力の向上に努めた。 ・学業指導応援事業では、児童のアンケートをもとに、実態に応じた学習活動の見直しを行うことができた。 【次年度の方針】 ・より主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業を相互に見せ合う機会や研修を継続し、教員同士が学び合い高め合う授業研究会を実施する。
1ー(2) 豊かな心を育む教育の推進	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 思いやり星 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒保護者の肯定的割合	① 教育活動全体を通して、人権教育を推進し、違いを認め、他を尊重する態度を育てる。 ・縦割り班活動・勤労の奉仕活動における異学年交流や体験活動の充実	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 88.4% 保護者の肯定的回答率 92.8% ・児童は目標値を下回ったが、保護者は目標値を上回った。 ・年間を通して「思ちゃんコーナー」の充実に努めた。外部機関や異学年交流を通して思いやる心の育成を

	90%以上	・思ちゃんコーナー、思ちゃんカードの積極的な活用 ② 毎日の振り返りや授業を通して、生命や人権を尊重する心、人を思いやる心などを育成する。 ・経験や体験活動等と関連を図り、自分ごととして捉え主体的に考える道徳科授業の展開 ・朝の会や帰りの会等における自他の違いやよさを認め合う場の工夫		図った。 ・児童会主催のいじめゼロ集会で、友達を思いやる態度の育成に努めた。 【次年度の方針】 ・今後も継続して取り組み、思いやりの心をもった児童の育成に努めるとともに、人権教育活動の活性化を図る。
	A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 健康星 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上	①自己のめあてや目標に向かってあきらめずに取り組めるよう認めて褒めて励ます指導に努める。 ・学校行事や児童会活動、各種検定等で立てた目標を振り返り時には、結果のみならず過程における自己の姿を振り返らせる。 ・学級活動や児童会活動などにおいて、児童主体の活動を計画・実現することで、取組への満足感や達成感を得られるよう支援する。 ② 四つ星表彰や宮っ子教育表彰などを通し、児童が目標達成に向けて努力したことを称賛する。	A	【達成状況】 児童の肯定的回答率 88.1% ・目標値を若干下回った。感染症対策の制限が緩和してきたものの、個に応じた指導や支援を今後も継続して行い、達成感得ることで、粘り強く取り組む姿勢を育てる。 ・継続して、全校をあげて、学習や生活、清掃活動の頑張りを認める「めざせ四つ星マスター」の取組や、「読書の鉄人」の達成など、児童が意欲的に取り組む姿が見られた。 【次年度の方針】 ・学校行事の再開、児童会による新たなイベントの開催、各種検定の内容の工夫などを通して、児童が自主的・主体的に学校行事やイベントに取り組めるように、キャリアパスポートなどを活用し、めあてを立てさせて振り返りをする。 ・四つ星表彰や宮っ子教育表彰などを通し、互いに認め合う場を設ける。励ましの機会を設けるとともに、目標達成に向けて努力している児童を称賛する。
1-(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 健康星 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 児童が自ら健康を管理できるように、日常的に指導するとともに学級活動等の授業における指導を充実し、保健安全指導に努める。 ・休み時間の過ごし方・廊下の歩行や、手洗い・うがいの励行などについて生活目標に設定し、毎日の振り返りを実施 ・学校給食と各教科等の関連を図り、栄養バランスのとれた食事やマナーの大切さ、望ましい食習慣の形成を図る指導の充実 ② 危機を予測し、自らの命を守る行動力を育成するために、日常の安全指導を充実するとともに、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 92.1% 教職員の肯定的回答率 88.9% ・児童の目標値は上回ったが、教職員の目標値は下回った。 ・避難訓練などを通して危機を予測し、自らの命を守る行動力を育成することができた。 ・給食時の栄養教諭の放送や養護教諭の感染症予防等の取組により意識が高まった。 ・休み時間の過ごし方や基本的な健康習慣を生活目標とし、振り返りを行ったことで、児童の健康や安全についての意識が高まった。 【次年度の方針】 ・児童の実態や課題について教職員で共通理解を図り、健康や安全に気を付けて生活できるよう指導に努める。
1-(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしよう	① 授業や生活の振り返り活動を重視し、児童が発揮したよさや努	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 89.2% 教職員の肯定的回答率 96.3%

	としている。思いやり星 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	力、協力するよさが自覚できるような自己評価や相互評価の場を設ける。 ② 教室の思ちゃんカードや学級活動等を活用し、児童相互に認め合う場を多く設ける。 ③ 教職員は気付いた児童のよさや姿を共有し合い、進んで声掛けを行うなど認めて褒めて励ます指導に努める。	・教職員の肯定的回答率は上回ったが、児童の肯定的回答率は目標値を下回った。 ・授業や生活の振り返り活動を重視し、自己評価や相互評価の場を設けることで、自己存在感の高揚を図った。 ・児童相互に認め合う場を設定することで、自尊感情や自己有用感の高揚を図った。 【次年度の方針】 ・授業や生活の中で、一人一人が自分のよさや頑張りを自己評価したり互いに認め合う場を数多く設定したりする取組を継続する。
2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 外国語活動や外国語の授業を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的に英語でのコミュニケーションを図ろうとする活動を展開する。 ② 授業以外にも、ALT と英語でのやり取りをする機会を設け、児童が英語にふれる機会を多くする。 ③ 日常的に使えるフレーズを用いた掲示物を作ることで、英語に触れる機会を増やしていく。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 85.7% 教職員の肯定的回答率 92.6% ・児童の肯定的回答率は 4.3 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・引き続き積極的に英語でのコミュニケーションを図る活動を展開することにより、英語で表現する意欲を高めるようにする。 ・ALT と英語でのやり取りを通して、授業以外にも英語に親しめるようにする。 ・学年に応じて、朝の会に英語の歌を取り入れるなど、英語に親しむ機会を作るようにする。
	A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上	① 総合的な学習の時間や生活科、社会科における地域の学習において、児童が身近な地域や宇都宮市のことについて関心をもつような教材や授業展開の工夫を行う。 ② 給食の「宮っ子ランチ」や地産地消献立に関わる資料作成や放送などを通して、宇都宮の歴史や良さを紹介し、関心を高める。 ③ 図書館の宇都宮関連の常設コーナーの充実を図ったり、宇都宮に関連する本を読み聞かせたりする。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 85.9% ・目標値を下回った。 【次年度の方針】 ・1・2年の生活科や、各学年道徳の地域教材、3・4年の社会科、5・6年の総合的な学習の時間の中で、宇都宮のよさを意識できるように、学習活動を工夫する。 ・給食での「宮っ子ランチ」の取組を継続し、宇都宮の歴史や農産物等への理解を深めるようにする。 ・宇都宮に関する書籍を手に取りやすくレイアウトしたり、読み聞かせを通して触れる機会を作ったりして、宇都宮に対する関心を高められるようにする。
2- (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒保護者の肯定的割合 90%以上	① 学校図書館の環境整備や利用喚起を図る。 ・随時蔵書を点検し、図書選定委員会を通じて、児童の希望や学習に必要な図書を計画的に補充する。 ・調べ学習等で必要な関連図書を選定したり、南図書館に協力依頼を行ったりして、各学年学級に配置するなど児童が身近に活用できるように工夫する。 ② 児童が一人一台端末に親しみ、	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 88.4% 保護者の肯定的回答率 90.1% ・児童の肯定率は 1.6 ポイント下回り、保護者の肯定率は同程度だった。 【次年度の方針】 ・引き続き国語や総合等の調べ学習等で必要な図書を利用したり、協同的な学習場面に一人一台端末や ICT を利用したりすることで、児童が図書や ICT 機器に親しめるようにする。 ・一人一台端末をはじめとする ICT 機器の活用方法や活用頻度を学年内

		適切に活用する能力を育成する。 ・授業の中で、一人一台端末等 ICT を活用し協働的な学習場面を工夫する。 ・ICT 支援員のサポートにより、児童の一人一台端末の有効活用の向上を図る。 ・児童の振り返りや学習のまとめなどを一人一台端末で行うなどして、保護者に児童の学びを知らせる工夫をする。		で共有し合い、ICT 支援員のサポートや校内研修を利用し、児童や教員の活用技術の向上を図るようにする。 ・端末の持ち帰りにおける約束事を学校全体で共有し、引き続き児童に負担のないような運用に努める。
2-(3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 環境問題への関心を高め、環境と調和しながら生きる意欲や態度を育成する。 ・環境教育を教科横断的に捉え、関連した学習や学級活動において、持続可能な社会のためには、児童本人の行動が深く関わっていることに気づかせ、各学級で児童主体の取組を実践する。 ・各委員会活動、特に環境委員会では児童が主体となる活動を設け、資源の節約や緑化など環境づくりを推進するとともに、全校に周知する場を設け、関心を高める。 ② 図書資料の充実を図り、SDGs について、主体的に学べる環境を整える。 ③ 教育活動全体を通して、人権教育を推進し、違いを認め、他を尊重する態度を育てる。	A	【達成状況】 児童の肯定的回答率 89.5% 教職員の肯定的回答率 81.5% ・児童はほぼ目標値だが、教職員は目標値を下回った。 ・SGDs について掲示物を作成し、児童の関心を高められるようにした。 ・掲示物は作成したが、児童が SGD にて身近に感じることができなかったことが原因と考えられる。 【次年度の方針】 ・日本に限らず、全世界で「持続可能な社会」を実現するためには 1 人 1 人の行動が深く関係することを学年の発達の段階に応じて各教科や学級活動等を通して、気づかせる機会を設ける。 ・委員会での活動を全体に周知する場をより多く設け、少しでも SGD について身近に感じられる機会を設ける。
3-(1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A 10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 特別な支援を必要とする児童に対して、個別の支援計画や指導計画を作成・活用し、保護者・SC・関係機関と連携しながら、情報の共有や適切な支援を学校全体で行うようにする。 ② 特別な支援を必要とする児童を含むすべての児童にとって分かりやすい授業の展開や、ユニバーサルデザインを意識した指導をし、適切な支援に努める。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答率 100.0% ・目標値を上回った。 ・配慮が必要な児童について、個別指導計画や支援計画を作成し、必要に応じてケース会議を開くなどして方針を決め、学校全体で共通理解を図りながら、指導・支援を行った。 ・どの児童にも、分かりやすい授業や教室環境づくりを目指して取り組んだ。 【次年度の方針】 ・支援が必要な児童だけでなく、どの児童にも分かりやすい授業や教室づくりを学校全体で取り組んでいく。 ・今後も、支援が必要な児童については、必要に応じてケース会議を開くなどして、学校で情報を共有しながら児童の支援が協力してできるようにしていく。

3- (2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒保護者の肯定的割合 90%以上 ⇒地域住民の肯定的割合 90%以上	① 「いじめをしない、させない、許さない」心を培えるよう、あらゆる時間や場において、人権意識を高める指導の充実を図る。 ② いじめに関するアンケートや教育相談を定期的に行い、組織的な対応により早期発見、早期対応に心掛ける。 ③ 児童会を中心とした「いじめゼロ集会」の内容を工夫して行い、思いやりのある行動をする意識を高める。 ④ 保護者には、学年だよりや学校ホームページに、教育相談や集会の様子、道徳や学級活動等で学習したことなどを掲載し、学校の取組を発信していく。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 98.0% 保護者の肯定的回答率 81.5% 地域住民の肯定的回答率 100.0% ・児童、地域住民は目標値を上回ったが、保護者では目標値を下回った。 ・児童会が中心となって「いじめゼロ集会」を実施し、いじめに対する意識を高められた。 ・定期アンケートの他にも、いつでも児童が相談しやすくするため、相談ポストを新しくして、改めて児童に周知した。 【次年度の方針】 ・今後も継続して取り組み、いじめ根絶に尽力する。 ・児童会主催のいじめゼロ集会や教育相談での取り組みを各種便り等で周知することで、理解を求めている。
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒保護者の肯定的割合 90%以上	① 「挨拶」「励まし」「称賛」等の言葉掛けを行ったり、主体的に活動する場面や、活躍できる場面を設定したりして、自分の居場所となるような温かい雰囲気学の学級経営に努める。 ② 教室の思ちゃんカードの活用など、児童相互に認め合う場を多く設けるとともに、教職員も認めて褒めて励ます指導に努める。 ③ 教育相談やQ-U 調査結果や普段の児童の様子から、不登校の兆候や傾向のある児童の早期発見、支援に関わる校内全体の情報共有を図る。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 96.0% 保護者の肯定回答率 87.6% ・児童の回答は、目標を上回ったが、保護者の回答については下回ってしまった。 ・授業時間だけでなく、様々な活動の中で児童一人一人を見取り、「認め褒め 励ます」を行った。 ・不登校の兆候が見られる児童については、ケース会議を開き方針を決め、教員全体で情報を共有し対応にあたった。 ・地域や大学の支援ボランティアの協力を得て、不登校傾向の児童を受け入れる場所を確保するなど校内の支援体制の整備に取り組んだ。 【次年度の方針】 ・児童が居がい感をもてる学級にできるよう経営計画をたて学級運営を行っていく。 ・心の小さなSOSを見逃さないようにし、不登校傾向の児童が見られた場合には、できるだけ早めにケース会議を開き、方針を決め、保護者と連携しながら、対応できるようにする。 ・外部の支援機関や人材と連携し、多様な居場所づくりを確保する。また、取組をHP等で紹介できるようにする。
3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実 3- (4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 日常的に児童の見取りを丁寧に言い、児童の話をよく聞き、悩みや困り感に寄り添いながら励ます指導に努める。 ② 職員間で定期的に児童の情報共有を行い、必要な支援を組織的に行う。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 96.7% 教職員の肯定的回答率 96.3% 地域住民の肯定的回答率 100.0% ・目標値を上回った。 ・感染症による制限が緩和された、学校行事など児童が生き生きと活動できる場面が増えた。 ・児童一人一人をよく見取り認めるよ

	⇒地域住民の肯定的割合 90%以上	③ 学校評価、行事アンケート等を検証し、児童の思いを生かした学校行事、児童会活動、学年活動等を設定し実施する。 ④ 授業や生活の振り返り活動を重視し、児童が発揮したよさや努力したことが自覚できるような自己評価や相互評価の場を設ける。		うな学級経営を行った。 ・授業の中で、児童が活動を振り返り互いに認め合うような学級づくりを行った。 【次年度の方針】 ・児童の意見を取り入れた楽しい学校行事や、児童会活動・学年活動などを通して、認め合い助け合える人間関係の醸成に努める。
4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業や児童生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 授業のねらいを明確にし、少人数指導や IT、課題別学習など各学年の実態や各単元に応じた指導法の工夫を図り、個に応じた多様な学習を展開する。 ② ICT 機器を積極的に活用したり教材提示資料を工夫したりして学習意欲を高める工夫をする。 ③ 朝の学習の時間などを活用して、漢字・計算をはじめ、基礎的・基本的な学習の定着を図る。 ④ 学習の様子を学校のホームページに掲載し、児童の取組状況などを保護者に発信していく。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 98.2% 教職員の肯定的回答率 100.0% ・児童、教職員ともに目標値を上回った。 ・本年度の研究主題に向かって、授業のねらいを明確にし、児童の意欲や考えの深まりを意識して、少人数や IT など、個に応じた多様な実践を展開することができた。 ・デジタル教科書や実物投影機、タブレットなど様々な ICT 機器を活用し、児童の意欲や理解を高めることができた。 ・朝の学習時の漢字や計算、読書を中心とした学習により、学習の基礎となる語彙力が身につけてきている。 【次年度の方針】 ・引き続き、授業のねらいを明確にし、児童の意欲を高める工夫や、各学年の実態や各単元に応じた指導法の工夫を図り、個に応じた多様な学習を展開する。 ・個に応じた言葉かけや、課題の提示の仕方など、指導・支援を工夫する。 ・朝の学習の時間を活用して、基礎的・基本的な言語の力の定着を図る。
4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 教員と専門性を有するスタッフがそれぞれの能力や専門性を生かしながら、学校の諸課題や運営等に相互に連携・協力しながら取り組む。 ② 校内の OJT をさらに進め、チームとしての協働性を高め、若手教員の育成をはじめ、教職員全体の資質向上を目指していく。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答率 92.6% ・目標値を上回った。 ・それぞれの専門性を活かしながら、教職員全体で協力し、課題に取り組むことができた。 ・日頃から児童理解や学習指導などの情報を共有し、学年の枠を超えて連携し問題解決に取り組むことができた。 【次年度の方針】 ・次年度も、全教職員がチームとなり連携を密にして対応に当たるようにする。
4- (3) 学校におけ る働き方改 革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 学級事務や児童指導等の共有化を図る時間を確保するため、日課の変更を行うとともに、ICT の活用推進やペーパーレス化に努める。 ② 行事等の実施後や学期ごとの業務アンケートにおいて、課題や改善案を出し合い、さらなる業務の	A	【達成状況】 教職員の肯定的回答率 66.7% ・目標値を下回った。 ・出退勤時刻記録や定時退勤日の設定・実施を通して、教職員の自己の勤務時間に対する意識づけは出来ているが、様々な課題に対して教職員がチーム一丸となって取り組んでいるため、学級事務等の業務時間を確保することが喫緊の課題であ

		効率化を図る改善策を見出し実行していく。 ③ 出退勤時刻記録を継続し、教職員が自己の勤務時間を意識し月に一度の定時退勤日を確実に実施する。 ④ 地域コーディネーターや学校支援ボランティア等の協力を得て、効果的で効率的な業務の改善に努める。	る。 【次年度の方針】 ・今年度実施・検討した内容を活かし、業務の効率化に努める。
5-(1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 「あいさつ運動」など<u>地域学校園の取組を各種便り、ホームページ等を通して、積極的に保護者や地域に周知する。</u> ② <u>小中学校での相互の授業参観や研究授業の公開、中学校からの乗り入れ授業等の積極的な交流を実施する。</u> ③ <u>各分科会や学校一人配置職員の分科会を通して、地域学校園内の相互支援体制を充実する。</u>	【達成状況】 児童の肯定的回答率 92.8% 教職員の肯定的回答率 81.5% ・教職員の目標値を下回った。 ・コロナ禍以前の活動に戻しつつ、活動の最適化を図った。 ・学校事務・養護教諭・栄養士・児童指導担当間で積極的な情報交換を行った。 【次年度の方針】 ・地域学校園内の公開授業等の情報共有を密に行い、教職員が積極的に参加できるように呼び掛ける。 ・小中一貫の取組について、ホームページや学年だより等を通して、保護者に発信する機会を増やしていく。
5-(2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒地域住民の肯定的割合 90%以上	① 保護者による学習支援ボランティアや読み聞かせ、安全ボランティア等の地域教育力を積極的に生かした体験型学習の充実に努める。 ② <u>横川地域学校園の地域人材等について、交流連携分科会において、情報の共有化を図り、活用に努める。</u> ③ <u>学校が地域や企業等の協力を得て、特色ある教育活動を行っていることについて、児童への周知を図る。</u>	【達成状況】 児童の肯定的回答率 92.3% 地域住民の肯定的回答率 100.0% ・児童の目標値は下回ったものの、地域住民の目標値は大きく上回った。 ・低学年を中心に、保護者と地域住民との関わりが十分にもてた。 ・ホームページを活用し、積極的に発信することができた。 【次年度の方針】 ・総合的な学習の時間を中心に、年計の見直しを行って、継続性や系統性のある教育活動を目指す。 ・引き続き、本校の取組を発信し、保護者や地域に対し、より一層の協力を呼び掛けていく。
5-(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進			
6-(1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 ⇒保護者の肯定的割合 90%以上 ⇒地域住民の肯定的割合 90%以上	① 毎月の安全点検や定期的な教材・備品等の整理整頓により、危険箇所や不備について迅速な改善に努める。 ② 危機管理マニュアルの整備や地域防災会との連携協力を行うとともに、校内では避難訓練や引渡し訓練等を通して、不測の事態への備えを万全にする。 ③ 駐車場利用や周辺道路への駐車禁止等に関して、メール配信や各種たよりなどで保護者に周知し、理解や協力を得る。	【達成状況】 保護者の肯定的回答率 88.4% 地域住民の肯定的回答率 92.3% ・地域住民は目標値を上回ったが、保護者の目標値は下回った。 ・安全点検を全教職員が行い、可能な限り修理修繕に努めた。 ・不測の事態へ備えるために避難訓練や引渡し訓練等を行い、危機管理能力を高めた。 ・地域協議会では避難計画や危機管理マニュアルの周知を行った。 【次年度の方針】 ・引き続き今年度の取組を行い、安全に配慮した環境づくりに努めると

				ともにホームページなどを通して地域住民、保護者に対し、学校の安全計画や活動を周知していく。 ・駐車場の自由利用や朝の送迎については、例年保護者からの要望があるが、限られた敷地を自由に開放することは難しい。周辺道路への駐車禁止等も併せて、引き続き協力をお願いしていく。
6-(2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 授業の中で実物投影機、デジタル教科書、一人一端末等 ICT 機器を有効活用し、学習活動の充実を図る。 ② 情報教育主任を中心とした校内情報教育研修や活用実践の共有化により教員の ICT 活用能力の向上を図る。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答率 100.0% ・教職員の肯定的回答は 100%で目標値を上回った。 ・一人一台端末を積極的に取り入れ、調べ学習や授業の中の様々な場面で活用したり、校内研修を実施したりすることができた。 【次年度の方針】 ・ICT 機器を活用した学習形態の工夫や授業改善により、分かりやすい授業展開を図る。
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 思いやり星 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① <u>家庭や地域団体と連携しながら、あいさつの日常化を図る。</u> ・学級や学年集会等であいさつの大切さを理解させたり、よくできている児童を称賛したりするなど、礼儀やあいさつに対する意識の高揚を図る。 ・児童会主体のあいさつ運動継続 ・教職員自ら明るく元気のあいさつを心掛ける ・地域協議会作成「挨拶タスキ」の有効活用 ② <u>横川地域学校園による「あいさつ運動」を実施する。</u>	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 89.2% 教職員の肯定的回答率 85.2% ・児童、教職員にやや目標値を下回った。 ・代表委員会児童が中心となってあいさつ運動を実施し、意識の高揚を図った。 ・日常的に教職員から児童にあいさつをすることで、あいさつのよさを伝えてきた。 ・小中連携により、中学生とともに挨拶運動を実施することができた。 【次年度の方針】 ・今後も継続して取り組み、時と場に応じたあいさつができるよう指導していく。
	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 思いやり星 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上 ⇒地域住民の肯定的割合 90%以上	① 「学校は社会のルールを学ぶ場である」という共通理解のもと、全教職員で指導内容を明確に把握し、基本的な行動様式の指導を徹底していくことで、習慣化を図る。 ・生活目標（短期的な具体目標）を設定し、時間を守ること、言葉遣いや廊下歩行について指導の重点化を図る。 ・児童会を中心とし、児童主体の活動を行うことで、規範意識の醸成を図る。 ・道徳科の授業や学級活動を中心として、児童の規範意識、思いやり心の育成に努める。 ② <u>横川地域学校園で推進する時間・言葉づかいの指導の徹底を図る。</u>	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 91.9% 教職員の肯定的回答率 88.9% 地域住民の肯定的回答率 76.9% ・児童は目標値を上回ったが、教職員、地域住民共に目標値を下回った。 ・職員の共通理解のもと、ルールを守って学校生活を送ることができるよう指導してきた。 ・代表委員会で生活目標を作成し、学級に掲示することで、意識の高揚を図った。 【次年度の方針】 ・今後も継続して取り組み、学校内外でルールやマナーを守れる児童の育成に努める。

	B3 児童は、児童主体の活動やボランティア精神の涵養を図る勤労体験活動に主体的に取り組んでいる。 働き星 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 縦割り清掃、クリーン活動、勤労タイム等に児童が主体的に取り組めるよう、計画・実施する。 ② 米作り体験や教材園などの栽培活動を計画的・継続的に実施する。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 90.3% 教職員の肯定的回答率 92.6% ・児童・教職員ともに目標値を上回った。 ・感染症対策の制限を施しながら清掃活動を行った。 ・米づくり体験や教材園などの栽培活動も十分活動できた。 【次年度の方針】 ・クリーン活動と勤労タイムを一本化して児童が主体的に取り組めるよう、引き続き、計画的・継続的に実施する。
--	--	--	--

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

今年度、宇都宮市では、評価項目、質問アンケートの変更（そのうち、各校独自の評価項目はBの3つ）をしたため、昨年度の結果とは比較対象にならない項目が多くある。昨年度と同じ評価項目中で見ると、昨年度の肯定的回答割合を上回った項目は、児童が6項目、教職員が4項目、保護者が9項目であった。しかし、昨年度を下回った項目もあった。それぞれの項目について、全教職員で分析し、次年度の方針について協議した。

重点目標「思いやりの心の育成」に関する項目A2「児童生徒は思いやりの心をもっている。」の肯定的回答は、保護者や地域住民に関しては目標値90%以上を達成している。児童及び教職員は目標値を下回ってはいるものの、88%台である。行動制限が緩和され、様々な教育活動の中でグループ活動や異学年交流、学年集会等の児童間の交流が活発に図られるようになった反面、当然ながら、トラブルも発生する。学校では、その都度、児童同士の話をよく聞き、相手を思いやる言動について考えさせる指導を行い、個の能力や特性に応じた支援を日々行っている。そして、A11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」は、全対象者において昨年度を上回っており、とりわけ児童はほぼ100%に近い。地域住民に対しては、年間3回の地域協議会において、本校のいじめに関する実状や指導の取組について説明しており、実態を理解していただけていると考えている。また、B1「児童生徒は時の場に応じたあいさつをしている」は地域住民を除いて、80%台に止まっている。学校全体で「めざせ！横央小！あいさつマスター」という目標と具体的な挨拶の仕方の手本を掲げ、学級でも道徳や学級活動において挨拶は人への思いやりであることを学び、挨拶の大切さについては理解していると思われる。校内では来客や教職員に対して進んで挨拶する児童が多く見られるが、校外での挨拶については保護者や地域の方々から十分でないというご指摘をいただくことがある。不審者対策もあいまって、誰にでも進んで挨拶をするよう指導することが難しくなっている。

重点目標「学力向上」に関する項目A1「児童生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。」では、全対象者が目標値90%以上を達成している。A14「教職員は、分かる授業や児童生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。」については、児童及び教職員はほぼ100%、保護者は87.3%ではあるが昨年度を上回っている。これは、本校の研究課題のもと、教師が同僚や外部講師に積極的に授業を公開し、指導助言を請う校内体制を継続してきていること、児童の学ぶ姿から授業改善を考える研究を続けていることなどにより、教員一人一人が自身の資質向上に努めていること、また、デジタル機器を活用し、児童の学習意欲や理解を高めたことなどの表れであると考えられる。また、今年度は県の「学業指導応援チーム派遣事業」に参加したことで学びを得ることもできた。

重点目標「健康教育」に関する項目A4「児童生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。」は、児童・保護者・地域住民が90%以上、教職員も90%近い割合を示している。健康教育は、体力向上、保健教育、食育、安全教育といった幅広い領域であり、健康で安全な生活を送るために自ら考え行動できる児童の育成を目標としている。近年、登下校時の安全に関する情報提供や児童間のトラブルなどに指導を要する時間が増加傾向にある。食育や安全教育など、家庭や地域と連携・協力が必要となることであるので、今後はさらに学校からも情報を提供し、家庭とともに児童に指導・支援できるようにしていきたい。

重点目標「地域と共に歩む学校づくり」に関する項目A17「学校は『小・中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている」は、児童の肯定的回答割合が昨年度を大きく上回った。例年通りの「宮っ子チャレンジ」や中学校教員による「乗入れ授業」の実施に加え、今年度は「小中一貫挨拶運動」が再開された。中学生が朝早く学校に来て一緒に挨拶運動をすることで、地域学校園がより身近に感じる事ができた。そのような活動をホームページで紹介したり校内掲示板を新設したりした。A18「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」は、全対象

者において目標値を超え、いずれも昨年度を上回っている。長年にわたる全 PTA 協力の下校指導は、低学年児童の安全な下校に不可欠であり、昨年度は活動の継続に表彰を受けた。PTA 全体で児童の安全や成長を見守る体制に感謝したい。体験活動については、従来から行ってきたもち米農業体験があるが、今年度は、横央祭において地域・保護者の協力により餅つき・販売も再開できた。「1 年親子給食」「昔遊び」「幼保小交流」など地域や企業との連携で実施できた教育活動も増え充実したものとなった。

最後に、学校運営に関して A15「学校に関わる職員全員がチームとなり協力して業務に取り組む。」は目標値を達成した。本校の職員は、日頃から、それぞれの専門性を活かしながら、課題を共有し、学年の枠を超えた連携・支援体制ができています。A16「勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」については、66.7%と低い値を示しているが、昨年度を上回った。年 2 回の業務改善調査の結果、デジタル機器の活用、印刷物の配布削減などすぐに取り組めるものもあるが、次年度への改善方向が見出されたものもある。各個人の出退勤記録や定時退勤日の設定を行い、自己の勤務時間の意識化は図られているが、実際には児童指導等の様々な課題に対して教職員が皆で一丸となって取り組んでいるため、定時退勤や各自の業務時間の確保が大きな課題である。

7 学校関係者評価

【第 3 回魅力ある学校づくり地域協議会・学校マネジメントシステムアンケートより】

- ・学校へ行った際、子供たちとすれ違う時、皆、積極的に挨拶をしてくれて感心している。
- ・先生方と子供達の信頼関係も感じられ、保護者と学校との連携もとれていると思う。
- ・学校はたくさんの協力のもと、安心・安全な教育がされていると思う。
- ・学校の良いところが評価に出ていると思う。
- ・A1～14、A19 については、児童と教職員はだいたい同程度に高いが、保護者が低くなっているのは、保護者への通知があまりなされていないとのことだと思う。これからの課題だと思う。
- ・学校はよくやっている。学校全体でいろいろな取組をしており、今後も頑張って子供を育ててもらいたい。
- ・通学路の安全について、さらに協力したい。
- ・学校とはもっと話がスムーズにできたらいいと思う。
- ・A11 の保護者の評価の低さが気になった。保護者の方々に先生達の努力が伝わる方法が何かあればいいのだが。
- ・児童は宇都宮の良さを十分知っているはずなのに、なかなか評価があがらないので不思議だ。
- ・課題解決部会のお話のときに、学校側からも何か問題提示していただければ幸いです。
- ・A16 の教職員の勤務時間に関しては、頭が下がるばかり。効率的に改善する方法が少しでも多く見つかりますよう。
- ・ほとんどの項目が 90% くらいの肯定的回答があり、安心した。目標を下回ったものについては、示してある次年度の方針に沿い、よくなることを信じている。
- ・次年度は体育館建設工事のために様々な行事や日々の授業もこれまでと違う進め方となり、事前の準備なども大変かと思う。地域協議会や PTA など協力できるところは協力して、とにかく子ども達が安全に充実した生活を送れますようお願いしております。
- ・体育館が大きくなることで、今後は安全面の評価があつたらいいと思う。
- ・読み聞かせの募集ポスターを児童と学習支援ボランティアの共同で作成し、南図書館等に貼ってもらうのはとても良いことだと思った。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

今年度は、5 月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが「5 類」に引き下げられ、全国的な行動制限緩和に伴い、本校でもコロナ禍以前の行事や教育活動を徐々に再開実施してきた。しかし、時期によってはインフルエンザ等感染症の罹患数が増え、学級休業の措置を取らざるを得ないこともあった。そのような中でも、今年度も魅力ある学校づくり地域協議会や学習支援ボランティアなど、地域や保護者の方々には常に様々な場面で協力を得ることができたことに感謝したい。

今回の評価結果と校内自己評価をもとに、次年度の方策について協議・検討した。

- ・ほとんどの項目で、肯定的回答割合は 85% を超えており、児童や保護者、地域の方々の多くは、学校が安心・安全な教育環境づくりを推進していることに理解を示していると考えます。しかし、今後も引き続き、家庭・地域と連携を図りながら、本校の教育目標（目指す児童像を含む）の実現に向けた教育活動に取り組んでいく。そして、学校経営の理念（目指す学校像を含む）に示した「楽しい学校」となるよう、児童の主体性を大切にしたい教育活動を展開していく。
- ・横川地区は伝統的な地域行事がある地区である。そのような伝統的な地域行事に参加することや小中一貫連携活動や地域・企業等との連携事業を実施することは、児童の郷土への理解や地域への愛着が深まることから、引き続き、参加を

促したり活動の場を設定したりしていく。

- ・教職員の勤務改善について、今年度は金曜日課を設定し、放課後の情報共有や学級事務等の時間を確保した。また、一部ペーパーレス化（児童への周知や指導に必要な通知は従来通りの印刷・配付を実施している）、児童一人一台端末の活用による授業準備の効率化などが進められた。高学年においては、国の方針である教科担任制を一部実施したが、次年度はさらに本校教員の専門性や実態に合う方法を検討する必要がある。また、平日の放課後には臨時ケース会議や保護者との情報共有等が入ることが増加している。いずれも必要不可欠なことであることから、より可能な業務時間の確保・校務の見直しを行い、労働時間の適正化を推進していくことが課題である。